

The 17th JTTRI-KOTI Joint Seminar ～交通分野のカーボンニュートラルとデジタルトランスフォーメーション～

1. 開会の挨拶

宿利正史 (JTTRI会長)

JaeHak OH (KOTI院長)

2. セッション1

「交通分野のカーボンニュートラル」

モデレーター：金子正志 (JTTRI 主席研究員)

「交通需要マネジメントに焦点を当てたカーボンニュートラル戦略」

Sangwoo PARK (KOTI研究員)

「低・ゼロ炭素燃料を用いた国際海運からのCO₂排出の削減(新燃料からのCO₂排出のライフサイクルアセスメント)」

竹内智仁 (JTTRI 主任研究員)

3. セッション2

「交通分野のデジタルトランスフォーメーション」

モデレーター：Hee Cheol SHIN (KOTI 主任研究員)

「日本における新たなモビリティサービスの事例研究の紹介」

藤崎耕一 (JTTRI 主席研究員)

「韓国におけるスマートシティとスマートモビリティプロジェクト」

Sunghoon KIM (KOTI研究員)

4. 総評及び次回セミナーについて

モデレーター：鈴木晋也 (JTTRI研究員)

討論者：山内弘隆 (JTTRI 所長)

Jaehak OH (KOTI 院長)

5. 閉会挨拶

Jaehak OH (KOTI 院長)

宿利正史 (JTTRI 会長)

【開催概要】

日韓ジョイントセミナーは、JTTRI と韓国交通研究院 (KOTI) の間で1996年より毎年開催されている運輸分野の研究成果を共有する会議です。17回目の開催となる昨年は、11月10日にKOTI よりオウ院長以下5名の研究員がJTTRI 本部に来訪し、「交通分野のカーボンニュートラル」と「デジタルトランスフォーメーション (DX)」をテーマに開催されました。セミナー後には懇親会により交流を深めるとともに、翌11日には開業に向け急ピッチで整備が進められている東急・相鉄線の建設状況を新横浜駅等において視察しました。

交通分野のカーボンニュートラルについては、韓国側からは都市部における低排ガス地域や自転車交通の導入に関する政策効果シミュレーション等について説明があり、日本側からは竹内主任研究員より、海運分野の新燃料の評価の在り方についてライフサイクル全体での評価や生産方法等に応じた適切な評価が重要である旨の提言を行いました。

DXについては、日本側は藤崎研究統括より、データプラットフォームの活用によるデマンドサービス等の推進や、デジタルデバインド対策の優良事例について情報提供しました。韓国側からは、スマートシティの推進について、データハブやデジタルツインの重要性に言及しつつ、自動運転、MaaS 等スマートモビリティの実現可能性について実例を示して説明がなされました。

その後、今年韓国で開催する次回セミナーに関する議論に加えて、KOTI より9月にマレーシアで開催予定の第15回アジア交通学会 (EASTS) における日韓共同の特別セッション開催の提案があり、今後検討していくこととなりました。

翌日の相鉄・東急直通線建設現場視察は、工事事務所にて事業の背景・概要説明を受けた後、2023年3月の開業を目前に控えた新横浜駅の整備状況を視察しました。

